

令和6年度第1回北斗市総合戦略検討・推進会議 議事概要

日時：令和6年12月26日（木） 13:30～16:00

場所：北斗市役所本庁舎1階大会議室

◎司会進行 企画課長

1 開会

- 開会に当たり、市を代表して市長より挨拶
- 事務局から、会議の趣旨説明、委員の紹介（20名）、欠席委員の報告（1名）

2 議事

(1) 会長・副会長の選出について

- 事務局案のとおり会長・副会長を指名
- 会長挨拶

◎以降は、会長が議事進行。

(2) 第3期北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）の策定について

◆第1 基本的な考え方

- 企画課長から計画期間、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」、北斗市が目指すべき方向、基本的方向、第3期における基本目標、推進方策について説明。
その後、担当部長から基本目標ごとに第2期戦略の評価・検証、第3期戦略の基本的方向について説明。

○質疑・意見等

（委員）

- ・日本のDXは、世界的に見て遅れている。国の政策を追従するだけでは成果を上げるのは難しく、北斗市独自の視点で、他自治体が実施していない新しい取組を進めるべきである。
- ・生成AIについて、現在はまだ専門的な知識が必要だが、5～10年後には一般的で手軽に利用できるものになる可能性が高い。自治体も生成AIを活用した効率的な業務運営を視野に入れ、技術の動向を常にウォッチし続ける必要がある。
- ・オープンデータの活用は、日本では非常に遅れており、特に台湾の取組が参考になる。何が大事なデータか認識し、北斗市ならではのデータ活用例を考えるべきである。例えば、センサーを用いてどの地域から除雪すべきか情報を収集し、それを市民に公開する仕組みなどが挙げられる。
- ・北斗市には多くの観光資源があるが、まだ十分に活用されていないと感じる。ワイナリーやその周りにあるオーガニック農家など、ブランド力がある事業者が多くある。地域の特色を活かした取組を更に推進してほしい。
- ・移住者や二拠点生活者にとって「面白い」と感じられるような小さな火種を育て、複利効果を活用して地域全体を活性化させてほしい。

- ・出生率を上げることについて、ヨーロッパ各国では70～80年代に男女の労働率の平等化に取り組んだ。男女の労働率が同じなった結果、出生率も上昇した。女性が経済的に自立していける精神的な安心感が出生率向上に深く関わっている傾向。産みやすさだけではなく、女性の自立や労働環境についても目を向けてほしい。

(委員)

- ・P.7「基本目標」に関して、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を踏襲して策定しているという説明があったが、「北斗市が目指すべき理想像」の表現がやや抽象的で、具体性に欠ける印象がある。この内容では、他の自治体名に置き換えても違和感がないため、北斗市の独自性をもっと盛り込んでほしい。
- ・北斗市の強みやオリジナル性をアピールするため、例えば産業や農業といった地域資源を基軸に据えた表現が望ましい。

(企画課長)

- ・意見を参考に検討したい。

(委員)

- ・最重点基本目標2「北斗で働く人・働きたい人を応援するとともに北斗の特徴を活かし「しごと」をつくる」について、北斗市に定住してもらうには仕事を創出するだけでなく、採用後の定着率を向上させる取組が不可欠である。北斗市の求人の多くが月給18～19万円であるが、函館仕事ガイド全体では20万円以上、北海道全体では21万5千円以上であるなど、他と比較して低い水準にある。この点を改善するため、待遇面での北斗市独自の施策を検討してほしい。地域として競争力を持つために、給与や働き方に関する見直しが重要である。

◆第2 基本的な考え方

○担当部長から、最重点基本目標ごとに、現状と課題、目指すべき姿、施策の方向性、打ち手の例、重要業績評価指標について説明。

その後、企画課長から最重点基本目標を達成するために必要な視点について説明。

○質疑・意見等

(委員)

- ・移住したいと相談があったときの現在の対応について教えてほしい。

(企画課長)

- ・「移住したい」という相談は少ないが、補助金を活用したUターンや移住相談会などを通して個別に対応している。

(委員)

- ・移住希望者への対応窓口として「移住コンシェルジュ」のような専門的な対応ができる仕組みが必要ではないか。移住コンシェルジュのように、移住希望者が仕事を探しているのか、起業を考えているのか、または住居を探しているのかをきちんと分類し、それぞれに合った支援を行える仕組みを構築することが重要である。
- ・北斗市の対応は他自治体と比較しても評価が高いと感じるが、引き続き、移住希望者の満足度向上を目指して対応を丁寧に進めてほしい。

(副市長)

- ・北斗市では10年前から移住促進を含む戦略を策定し、特に子育て世代をターゲットとした施策を実施してきた。しかし、首都圏から北へ移住する人は少なく、施策の難しさを感じている。
- ・近年、北斗市は新規就農分野での取組が進み、就農しやすい経営スタイルが整備されてきている。この強みを活かし、「仕事と暮らしをセットにした移住」に絞った施策を展開していきたい。

(経済部長)

- ・新規就農分野を中心に、就農フェアへ参加や農業担い手センターを活用した支援を実施している。

(委員)

- ・リモートワーカーや起業家をターゲットとした特区の創設や支援も検討してほしい。

(経済部長)

- ・リモートワーカーはどこでも仕事ができることから、近年、首都圏ではデジタル人材の確保が難しく、地方で人材を確保し、地方で働ける環境を構築することが今後の人材確保に有益だと考える傾向がある。北斗市では、北海道新幹線で東京から約4時間というアクセスの良さを活用し、新函館北斗駅前でのサテライトオフィス設置を進めている。この動きを他の事業者にも広げ、北斗市での「仕事」と「暮らし」の定着を目指している。

(委員)

- ・函館の移住コンシェルジュ制度では、移住希望者と地域の特性との間でミスマッチが生じるケースが多い。例えば、高収入層に市営住宅を紹介する、起業希望者に就職先を紹介するなど、需要と供給が合わないことが課題となっている。移住コンシェルジュには柔軟な対応力が求められる。
- ・サテライトオフィスを誘致するだけでは不十分であり、企業が北斗市で魅力的な生活ができる「サテライトハウジング」の整備も必要不可欠である。オフィスだけ完備しても、良い暮らしを提案できないのであれば、居住地として函館市を選んでしまう。

(委員)

- ・3年前に北斗市に移住し、実体験を踏まえた意見を述べたい。北斗市の子育て世帯をターゲットとした施策は有効だと感じている。人数が少ないため効果が見えにくい部分はあるが、移住を考える人々にとって一定の魅力がある。
- ・最重要基本目標1の内容はとても良い。私の家庭の場合、夫が東京の企業に勤めながらリモートワークで働いている。移住の理由は、子どもを自然豊かな環境で育てたいという思いからだ。このように、リモートワークが可能であれば、北斗市のような地域を選択肢に入れる家庭は増えると考えられる。そのため、移住希望者が北斗市を検討できるよう、更なる施策の充実を希望する。
- ・ライフイベント支援の強化について提案したい。20～30代の世代は結婚費用、出産費用、育児費用、住宅購入費、車の購入費など多額の支出が重なる時期であるため、この世代への支援が移住の促進につながるのではないかと。
- ・子どもの教育環境の充実も重要である。他自治体と差別化を図り、自然体験や

地域特性を活かした学びや体験の機会を提供してほしい。こうした取組は、子育て世帯に響きやすく、北斗市ならではの魅力となる。

- ・DXの活用についても意見がある。北斗市の情報発信は現状、Facebookが中心だが、若い世代に情報を届けるためにはInstagramやTikTokといったSNSも積極的に活用すべきではないか。これにより、子育て世代へのアプローチが効果的になると考える。

(副市長)

- ・子育て世代に響いているとの意見は大変励みになる。現在の施策の充実を図るとともに、発信力の強化も検討したい。SNSの多様な活用についても意見を参考に進めていきたい。
- ・人口減少は、北斗市のみならず国レベルで進んでいる。国が本来何をすべきか、そこに自治体はどう連携できるか、また自治体独自で何ができるか、という大きく分けて3つに区分し、委員の意見を伺いながら次の戦略でやるべきことを進めていきたい。

(委員)

- ・最重点基本目標1「充実する子育て支援により出会い・結婚・妊娠・出産のイメージを描ける「まち」をつくる」に、育児も追加してほしい。出産で終わるのはどうか。

(教育長)

- ・学校現場において、地域とのつながりを深めることが重要である。特に、小規模校では、地域住民と連携して「いかだ下り」や「餅つき」などの行事を実施し、地域特性を活かした教育を行っている。大規模校では地域とのつながりが薄くなりがちのため、全校区の児童が参加できる「イングリッシュキャンプ」などを実施している。これらの活動については今後も意見を伺いながら改善を図りたい。

(委員)

- ・最重点基本目標2「北斗で働く人・働きたい人を応援するとともに北斗の特徴を活かし「しごと」をつくる」に関連して、農業分野での具体的な取組についても記載を増やしてほしい。
- ・スマート農業は、JAでも重要視しており、市の補助金を活用したビニールハウス自動巻き上げ機の導入などが進められている。今後も北斗市との連携を強化しながら、人材不足への対応を推進していきたい。
- ・トマト共同選別施設については、年々パート不足で人員確保に苦労している。新たな施設では自動化を進め、パートの人数を半減する見通し。デジタルの要素を含めた施設にするため、北斗市と協力していきたい。
- ・新規就農者確保は、農家の高齢化・担い手不足の観点から必要な取組である。北斗市と連携してフェアへの参加し就農者確保を進めてきた。これからも北斗市と連携しながら新規就農者確保を進めていく。

(委員)

- ・北斗市が支援している北海道立工業技術センターは、研究員が在籍し、高度な技術相談や分析が可能である。この施設を活用するための補助をいただいております。非常に感謝している。

- ・最重点基本目標2「北斗で働く人・働きたい人を応援するとともに北斗の特徴を活かし「しごと」をつくる」については、地域産業の高度化を視点に含め、更なる発展を目指す内容としていただきたい。

(委員)

- ・P.13「打ち手の例」にある「中小企業競争力向上事業補助金による新商品開発支援」を利用した経験があるが、上限額が50万円では実際の費用300万円に対して不足感がある。上限額の引上げを検討することで、利用促進や企業の意欲向上につながるのではないか。
- ・P.11の子育て支援については、上手くPRすれば大きな効果が期待できる。また、保育園の充実を進めることで、働きやすい環境を更に強化してほしい。

(民生部長)

- ・北斗市では待機児童がゼロの状態を維持している。ただし、函館市に近い保育園では希望する保育園に入れないケースもあるため、今後も丁寧な調整を続けていきたい。

(委員)

- ・P.12「18～22歳の転出数全体に占める割合が高まっていることから、高校1、2年生の早い時期から周知することも必要である。」の部分について、はこだて未来大学では、高校生向けの起業化教育に取り組んでいる。一昨年は大野農業高校から1人参加があったが、もっと多くの高校生に参加してほしい。国では、起業を進める動きがあり、既に10代で起業する人も増えている。北斗市の高校生でも、就職せざるを得ないが、いつか力をつけて地元に戻ってきたら起業できるというきっかけになることを起業家教育で考える機会を与えるようなことを行っているので、ぜひ組み入れてほしい。
- ・北斗市ならではの特性を活かし、他自治体との差別化を図る取組が重要である。例えば、「かやぶきの家まねきや」の取組による貴重な体験を発信するのも一案である。
- ・全体的に記載内容が一般的で、他の自治体に置き換えても通じる部分が多い。「第2期北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の総括や評価・検証には非常に感動したため、第3期策定ではそのニュアンスを継承し、北斗市の独自性を更に強調してほしい。

(企画課長)

- ・P.7「北斗市が目指すべき理想像」について、抽象的な書き方となっているが、これまで北斗市が掲げてきた理念を反映したものである。意見を参考に、北斗市の強みを最重点基本目標や打ち手に反映していきたい。

(委員)

- ・P.7の全部の見出しが一般的過ぎる。その前のページはそれほど気にならなかった。

(企画課長)

- ・次回までに検討したい。

(3) 人口ビジョンの改訂について

○企画課長から北斗市人口ビジョンの改訂について説明。

○質疑・意見等

(委員)

- ・いきなり出生率2を超えるのは大変なことである。いい火種を寄せて集めて、複利効果を生み出すような施策を実施し、出生率を上げていけると信じている。

(4) その他

○事務局から、本日の議事録を作成の上各委員に送付すること、委員名を伏せた形でホームページにて公開すること、第2回会議の開催は1月末頃とし第3期総合戦略の原案をお示しすること、2月にパブリックコメントを実施し、会議で諮るべき意見等があった場合には3月に第3回会議を開催すること、以上について説明し、了承を得た。

3 閉会

会議終了